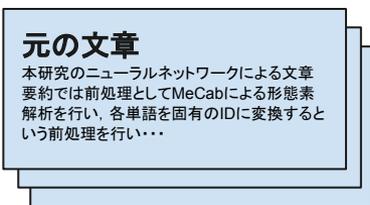
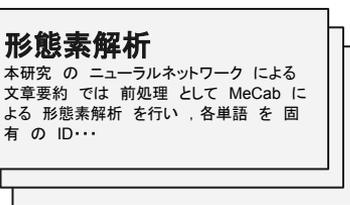


文章要約エンジンの概要

入力



前処理



ID変換

10 201 3206 5123 981 882…

単語辞書

- 1:私
- 2:楽しい
- 3:は
- 4:なので
- …

出力



深層学習モデル



要約された文章(ID)

20 8 101 19 77 123…

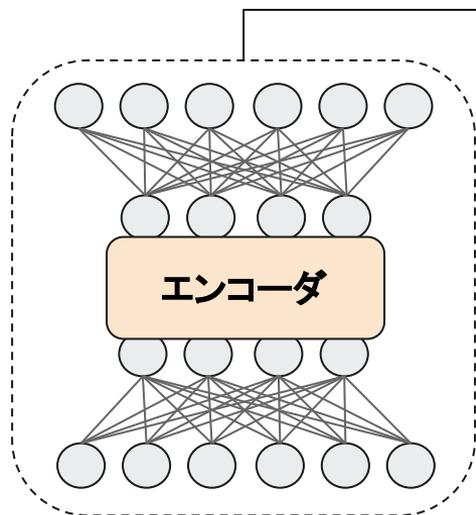


要約された文章

本研究では深層学習による文章要約を行った

文章要約エンジンの概要

これを繰り返して生成する



エンコーダ

入力

10

201

3206

5123

981

882

出力(k+1)

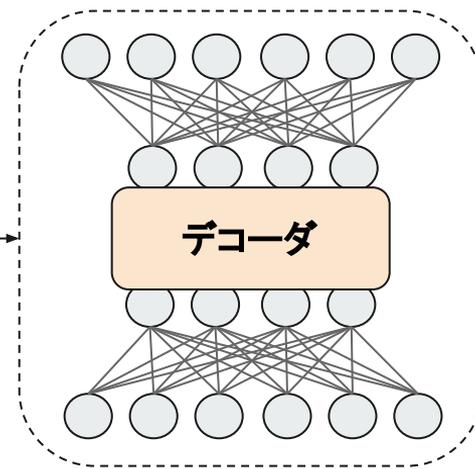
20

8

101

19

77



デコーダ

出力(k)

20

8

101

19

モデルの訓練 —データセット—



軽自動車で5年連続首位のホンダN-BOX
手放しで喜べない「現実」

f 12

13

2020年1月20日 18時0分

ざっくり言うと

- ✓ 販売好調の軽自動車N-BOXだが、ホンダには喜べない「現実」もあると筆者
- ✓ ユーザーは購入後、格安の外部業者に整備や点検を任せるケースが多いという
- ✓ そのため販売に注力するほど、ディーラーの収益を圧迫する結果になるそう

ホンダはN-BOXに頼り切った国内販売が続いている

自販連（日本自動車販売協会連合会）と全軽自協（全国軽自動車協会連合会）が、それぞれ2019年12月の登録車と軽自動車の通称名別（車名別）販売ランキングを発表した。そして12月の販売台数が発表になれば、2019暦年（2019年1月から12月）締めでの販売台数もまとまったことになる。

登録車と軽自動車を含めた、つまり2019暦年締めで日本一売れたクルマは、25万3500台を販売したホンダN-BOXとなった。ホンダのプレスリリースによると、登録車と軽自動車を合算した統計では3年連続、軽自動車のみでは5年連続の首位となったとのこと。

日本一売れているという名譽に輝くのはもちろん喜ばしいことと思えるのだが、本稿執筆時点では、まだホンダから2019年12月の販売実績が発表となっていないので、2019年1月から11月での、ホンダの四輪車総販売台数を見ると、68万2901台となつてい

ます。そのうち軽自動車（届出車）の販売台数は34万3283台となり、軽自動車の販

<https://news.livedoor.com/article/detail/17691635/>

ライブドアニュースコーパスを使用

- 約14万記事を使用
- 訓練データと検証データを 8:2に割合で分割
- 本文の文字数が多すぎるため 512単語を超えた部分を切り捨てた

モデルの訓練 —前処理(WordPiece)—

- 今の状態だと、「単語リスト」に無い単語(主に固有名詞)はすべて<UNK>という特殊文字で置き換えている
→ 文章要約では固有名詞が重要な場合が多い!
- そこで、WordPieceという手法を用いる
→ 「単語リスト」にない単語を更に分割して、「単語リスト」にある単語の組み合わせで表現する



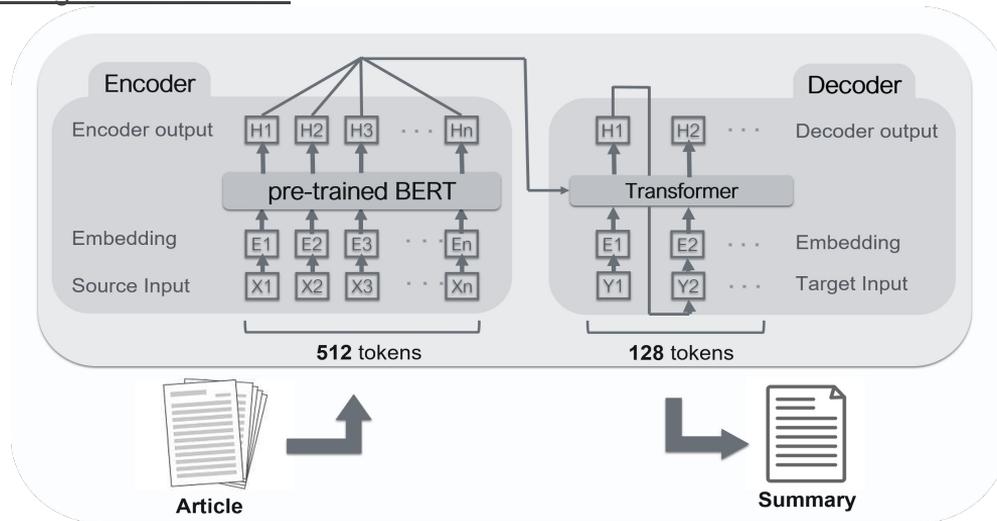
「単語リスト」に無い単語

「単語リスト」にある単語

深層学習モデル

- エンコーダ: BERT デコーダ: Transformer
- BERTは事前学習済みモデルは京都大学 黒橋・河原研究室にて配布されているものを使用
- モデル、ハイパーパラメータ等は下記論文を参考に実装した

<https://arxiv.org/abs/1902.09243>



モデルの評価

入力文(記事)

映画『スモーク』(1995)で世界三大映画祭の一つに数えられるベルリン国際映画祭銀熊賞受賞の実績を残した香港出身のウェイン・ワン監督と、日本が世界に誇るビートたけしと西島秀俊がタッグを組んだ映画『女が眠る時』(2月27日公開)。自身の監督作以外での主演は2004年の『血と骨』以来、実に12年ぶりとなるたけしは「頭を抱えるほど自分の演技が不安だった」と意外な言葉を口にした。その理由は、夢や妄想と現実の境目があいまいでミステリアスな作風によるものなのか。3人が語り合った。スペイン人作家ハビエル・マリアスの短編小説を大幅にアレンジして映画化した本作は、閑静なリゾートホテルを舞台に、親子ほど年の離れた妖しいカップル(たけし、忽那汐里)と、二人の謎めいた関係に取りつかれて好奇心の果てに暴走していく作家(西島)を見つめた、愛憎のミステリーだ。「主演は西島くんだと思っていた」と笑みを浮かべたたけしは、台本を読んで「俺は頭が悪いのかなと思った。普通の台本なら物語の流れも結末もわかるんだけど」と複雑に入り組むストーリーを理解することに苦労したという。自分より映画表現に詳しいと称賛する西島が「『いい』と言うなら間違いはないだろう」と安堵したが、「自分は自分の演技が不安だし、完成作も不安で頭を抱えながら自分の演技ばかりをずっと観ていて。観終わって、どんな映画だったっけ?と覚えていないくらいだった」と“世界のキタノ”と称されるたけしの知られざる一面が明かされた。「ウェイン・ワン監督がビートたけしさんを撮る作品ですから、それは出ますよね(笑)」と出演を即決した西島は、「今回は特にビートたけしさんが愛というものに執着する役」ということで、撮影現場でもたくさん衝撃を受けましたし、本当に感動しました。素晴らしかったです」と感激の表情。初めて日本映画を手掛けたワン監督も「日本で撮りたかったというより、たけしと仕事がしたかった」と言い切った。たけしが演じたのは、若く美しい女性(忽那)が眠る姿を動画に記録し続けるという一風変わった役。「愛しい存在の何を残したいか?」という問いに「自分はエンターテインメントの世界にずっといるので、お客さんの心に“あのときのたけしのギャグ、あの笑いはすごかった”というようなものを、一つ残せればそれでいい」と芸人魂をのぞかせたたけしだった。(取材・文:柴田メグミ)。

出力文(要約)

ビートたけしと西島秀俊がタッグを組んだ映画「女が眠るとき」。ビートたけしが愛というものに執着する役だったという。「自分は自分の演技が不安だし、完成作も不安で頭を抱えながら」と語った。